

広聴広報活動

☎ 総務課 ☎024-932-7643

水道100年のあゆみ

☎ 総務課 ☎024-932-7643



水道週間

6月1日～7日を「水道週間」として、全国的に水道に関するイベントを行います。

上下水道局では、下記の行事を実施しています。



ポスター展

猪苗代湖岸清掃

水の日・水の週間

2014(平成26)年に施行された「水循環基本法」では、健全な水循環の重要性について理解や関心を深める日として、8月1日が「水の日」と定められました。

また、8月1日を初日とする一週間は「水の週間」とされており、商業施設にパネルなどを展示して、お客様に水の大切さなどの理解を深めていただいています。



猪苗代湖の水を守りたい事業

本市の水道水源である猪苗代湖の水源環境保全の大切さや、上下水道についての理解を深めていただくため、湖岸清掃を、湖水浴シーズン終了後の8月下旬に実施しています。



下水道の日

「下水道の日」である9月10日を中心に、全国的に下水道への理解と関心を深めていただく期間です。下水道は、街をきれいにするなど、暮らしを支える重要な役割を担っています。日本下水道協会では「下水道」の普及啓発を目的に、ポスターコンクールなどを実施しており、本市の児童・生徒も応募しています。

市政きらめき出前講座

上下水道への理解を深めていただくため、職員が講師として市民の皆さんのところへ出向き、「市政きらめき出前講座」を行っています。10人程度集まれば申し込みすることができます。詳細は市ウェブサイトをご覧ください。



お客様の声ご意見箱

お客様の声を事業経営などへ反映させるため、庁舎1階入口に「お客様の声ご意見箱」を設置しています。また、市ウェブサイトでも受け付けています。



マンホールカード 無料配布中!

下水道に関心を高めてもらうマンホールカードは、国土交通省と民間企業による任意団体「下水道広報プラットフォーム」が主催する、マンホール蓋のデザインに特化したカードです。デザインの由来などを知ることができ、全国で1,076種類のカードが配布(2025年1月現在)されています。

本市では、2種類のカードを無料配布していますので、集めてみてはいかがでしょうか。



配布場所 磐梯熱海観光物産館 (2021年4月～)

配布場所 湖南公民館

郡山の水道のはじまり…血沼水道

人口約1,400人の集落を形成した享保時代(1720年代)になると、井戸水などだけでは飲料水が不足していました。このため、1722(享保7)年にかんがい用のため池であった「血沼」を貯水池として分水槽を作り、各戸へ竹樋を通して引水しました。



血沼水道分水槽

江戸時代

新たな水源を求めて…山水道

血沼水道は、田植え時期になると水が少なくなるため、1770(明和7)年に清水台、細沼などの高台に井戸を掘り、自然流下で引水する山水道をつくりました。しかし、引水するには多額の費用がかかるため、使用したのは資産家10軒程度で、付近の数戸はもらい水をしていました。

良質多量の水を求めて…多田野水道

1887(明治20)年頃の郡山町は、製糸業が盛んとなり、人口も増加したことから、良質で多量の水が必要となりました。

明治時代

そこで、当時の富商たちが資金を持ち寄り「郡山水道会社」を設立。現在の逢瀬町多田野地内3カ所から水管約10kmをつなぐ多田野水道をつくり、1890(明治23)年に完成しました。



多田野水道水管

近代水道の創設…豊田浄水場

1897(明治30)年頃、郡山の人口は急増し、さらに良質で多量の水が必要でしたが、多田野水道水管の腐食が激しく、給水に支障をきたすようになりました。



創設当時の豊田浄水場

そこで、当時の今泉久次郎町長が「水道が不備では郡山の発展はありえない」と近代水道の建設を決断。町の総予算(当時3万円)の5倍(工事完了時は6倍)の工事費を投じて、農業用ため池であった下の池を活用し、豊田浄水場を建設しました。そして、1912(明治45)年4月に東北では3番目、全国では23番目の近代水道として給水を開始しました。

第1次拡張事業(大正12～14年度)

人口増加により給水量が不足したため、町の北部を流れる逢瀬川から取水する施設および配水塔(高架水槽)を設置しました。



配水塔(高架水槽)

第2次拡張事業(昭和25～35年度)

戦後の復興により市勢発展が目覚ましい時代となり、衛生知識の向上による生活用水の増加や工業用水の需要増加などにより給水不足となったため、抜本的な拡張計画が立案されました。

第3次拡張事業(昭和37～39年度)

水源としていた安積疏水や逢瀬川の原水が、工場・住宅などの増加で極度に汚染されました。また、当時の周辺町村からの分水希望により給水量が不足しました。このため、安積疏水からの取水点を約7.5km上流に設置し、そこで取水した水を800mm鋼管により豊田浄水場まで導水しました。



導水管布設工事

第4次拡張事業(昭和40～41年度)

1964(昭和39)年の新産業都市指定や、1965(昭和40)年の1市5町7村の合併に伴う水需要の急激な増加に対応するため、当時、全国的にも例のない最新設備を豊田浄水場に設置しました。



浄水池築造工事



急速沈でん池等築造工事

第5次拡張事業(昭和42～46年度)

人口増加や給水区域の拡大などにより、水需要の増大が続いたため、逢瀬川浄水場の建設などを計画しましたが、原水汚濁などにより見直されました。

その後、逢瀬川の既存水利権の一部を上流へ移し、これを水源とする堀口浄水場を建設しました。



堀口浄水場造成工事

第6次拡張事業(昭和48～54年度)

市民の生活水準向上や下水道整備による水洗式トイレの普及、さらには給水区域拡大などに伴う急速な水需要の増加に対応するため、新たに猪苗代湖から直接導水する浜路取水塔の建設および堀口浄水場の整備拡充を実施しました。



浜路取水塔築造工事

昭和・平成・令和時代

第7次拡張事業(昭和55年度～平成19年度)

国が建設した三春ダムに新たな水源を求め、荒井浄水場の建設や配水管等施設の整備拡充を実施しました。



建設当時の荒井浄水場

第8次事業(平成20年度～令和7年度)

主要な事業として、2008(平成20)年度からの5か年計画で、豊田浄水場を廃止し、機能を堀口浄水場へ統合する「浄水施設統合事業」を進め、水道創設から100年を迎えた2013(平成25)年に完了しました。今後も、より災害に強い水道施設の整備をはじめ、適切な維持管理に努めます。